

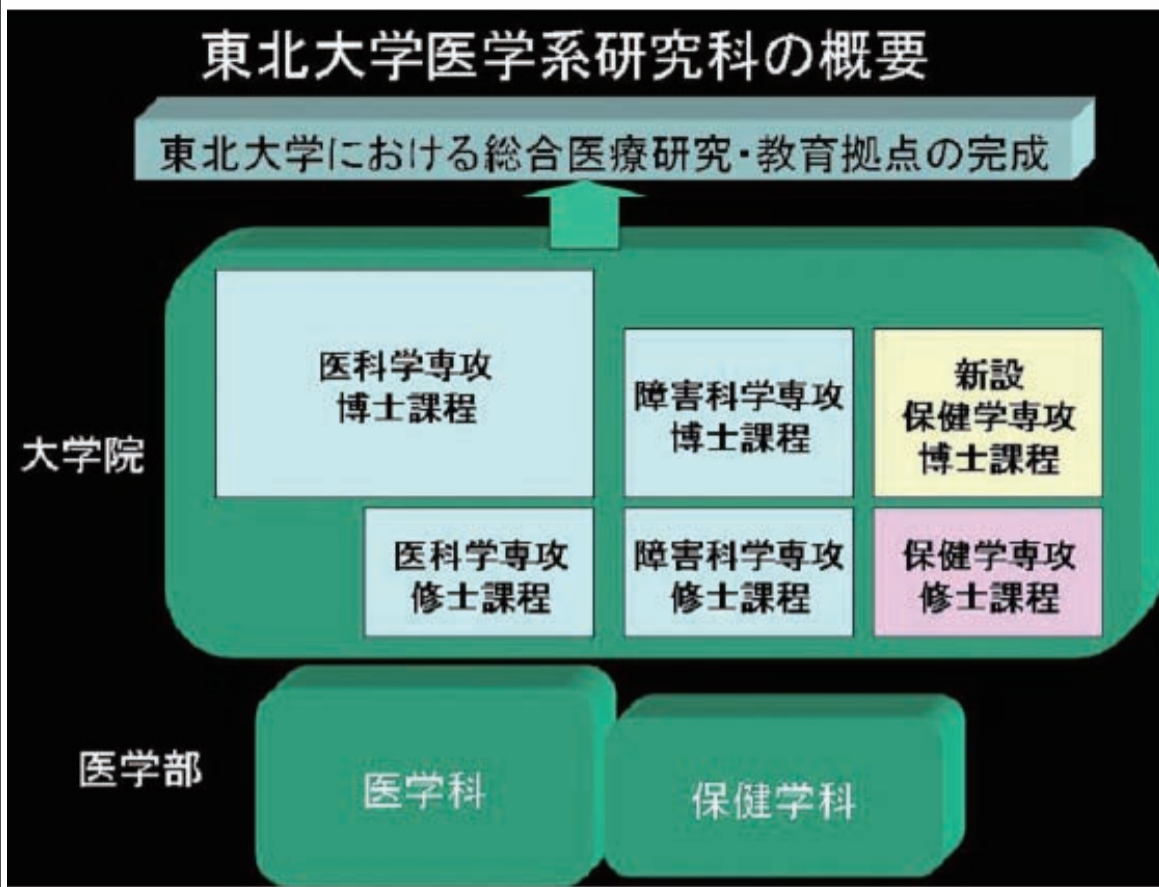
東北大学医学部保健学科

同窓会新聞

保健学科大学院に 博士課程設置！

このたび東北大学医学部保健学科は大学院博士課程が設置されることとなりました。
医学系研究科副研究科長でいらっしゃいます進藤千代彦先生よりごあいさつを賜りました。

ごあいさつ



発行人 進藤千代彦
 発行所 東北大学医学部保健学科
 仙台市青葉区星陵町2の1
 編集人 東北大学医学部保健学科
 同窓会新聞編集委員会
 編集委員 高根俊美、水口早苗、永井瑞希、
 千葉春香、柴崎瑛子、植松智有希

医学系研究科保健学博士 課程設置申請について

医学系研究科副研究科長
進藤 千代彦

平成20年4月に修士課程が開設され、修士課程2年生、1年生の学生さんが研究を進めているところですが、学年進行で平成22年4月からの保健学専攻博士課程の新設を目指して、設置計画書を文科省に提出し申請を行っているところです。

この博士課程は、2年間の修士課程に続く3年間のコースです。修了しますと看護学コースは「博士(看護学)」、放射線科学技術コースと検査技術科学コースは「博士(保健学)」を取得することができます。4年制の保健学科に続き、修士課程(前期)、さらに博士課程(後期)ができることで、かねてから望まれていた大学院がいよいよ完成することになります。

博士課程の設置は、日本において特に東北地方において、看護師における看護学博士の取得者や、診療放射線技師、臨床検査技師において保健学博士の取得者が極めて少ないことが背景にあり、看護学博士、保健学博士の人材育成を強く望む社会的要請があります。また、総合大学であるところの東北大学において、修士に続く博士課程を設置し、看護学、保健学の研究拠点

立しないといけないという学問的要請があり、以前よりその設置がのぞまれておりました。

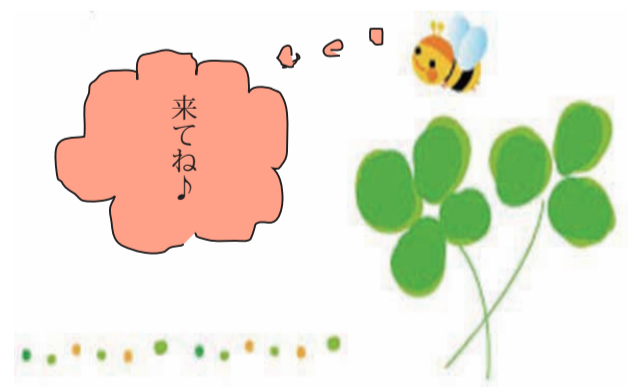
博士課程の概要は、おおよそ次のようになります。修士課程における看護学コース、放射線技術科学コース、検査技術科学コースの3コースの構成はそのまま継続されます。入学定員は全10名です。履修内容としては、1年次は共通必修科目、共通選択科目、専門科目から8単位以上を修得し、同時に研究計画の立案、倫理委員会の承認を経て、2年次には研究活動、T・A・R・Aとして活動し、2年次後半に研究の進捗状況を検討する目的で中間発表会があり、3年次には研究活動の継続とともに、論文執筆、論文投稿を行い、学位一次審査、学位二次審査をへて承認されると、学位が授与され修了することになります。共通必修科目(2単位)、共通選択、専門科目から6単位以上、学位論文にあたる特別研究は8単位で、博士課程修了単位は計16単位となります。

本博士課程が設置されたあかつきには、看護学博士や保健学博士を目指す学生さんの多くの積極的な入学を期待します。同時に、博士号取得後は病院、企業、官公庁、教育者・研究者として活躍していただきたいと思えます。そして、東北大学から日本全国の看護学、保健学を牽引していくような人材を輩出していきたいと考えております。

会費納入方法

第二回東北大学医学部保健学科同窓会総会で平成二十二年度から、卒業時一万円(十年分)を納入し、それ以降の納入は不要(永久会員)とすることが決まりました。

学生なんでも相談室 ができました!!



【対象者】東北大学医学部・医学系研究科の学生とその家族

【開設日】祝祭日及び年末年始を除く毎週水曜日11時～15時(要予約)

【申込み】予約は電話、電子メールを原則とする。相談室開室の当日に直接来所可。(当日、空枠が無い場合もあります。)

Tel: 022-717-8595

E-mail: soudan@med.tohoku.ac.jp

(受付時間9時～17時)
(土日祝祭日及び年末年始を除く)

【開設場所】星陵会館2階保健室

【相談員】臨床心理士のカウンセラー

【相談時間】

・原則として1回50分

・初めての方は、予約時間の10分前に星陵会館2階第2集会所で、相談申込票を記入するとともに、相談室利用上の注意事項を確認してください。

【注意事項】

- ・電話、電子メールでの相談はいつさい行いません。
- ・電子メールでの申込みは、申込者がEASTに登録しているアドレスから発信してください。また、件名には学籍番号を記入してください。
- ・電子メールでの申込みについて、すぐに返事を差し上げられないことがあります。
- ・やむを得ない事情で面接予約を変更したい場合、電話、電子メール、直接来所のいずれかの方法でその旨をお伝えください。

お知らせ

平成22年度/平成21年10月入学の大学院入学試験は終了しました。

なお、医科学専攻修士課程、医科学専攻博士課程(医学履修課程)、障害科学専攻博士課程(前期2年の課程)では、以下のスケジュールにより第2次学生募集を行います。
※障害科学専攻博士課程(後期3年の課程)及び保健学専攻修士課程では、第2次学生募集を行いません。

大学院入試関係スケジュール

11月下旬 学生募集要項の公表

12月7日(月)～11日(金) 入学資格審査受付期間

1月4日(月)～8日(金) 入学願書受付期間

1月28日(木) 入学試験日

2月12日(金) 合格発表

3月中旬 入学手続き

4月1日(木) 入学日

看護学専攻

分野紹介

看護が担うケアはヒューマンケアであり、人間誕生に至る過程から死を迎えるまでの一生涯において、健康でより良く生きることを援助する活動です。また、医学が病気の治療を中心としたライフサイエンスを担当する一方で、看護学は病人の療養生活の援助や疾病の予防・健康維持増進のための日常生活やセルフケアの在り方を支援する活動であり、ヒューマンサイエンスであると言えます。したがって看護学には、多様な学際的知識、および看護の対象を全人的に理解できる教育が必要とされています。看護学専攻では看護専門職に必要な基礎的能力や自己学習能力を養い、生涯にわたって成熟した人格作りを追求できる能力の育成を目的としています。

同窓生より

私は、今年から大学院に進学し、日々たくさんの刺激をもらいながら久しぶりの学生生活に新鮮な気持ちで臨んでいます。私は、もともと何かひとつのことを探求することが好きで臨床でも積極的に研究に取り組んできました。しかし、研究に対する自分の基礎知識不足を痛感し、理論からきちんと学びたいと思うようになりました。また、自分にとって看護って何だろう?と、もう一度看護の専門性を見つめ直したいと考えるようになりました。そのような時、偶然参加した講習会で、現在お世話になっている丸山良子教授と出会い、その講義に感動し大学院に進む決心をしました。初めは、退職し進捗することも考えましたが、授業の日は勤務調整をいただいたりと勤務先の師長さんやスタッフのみなさんのあたたかいご協力のもと、働きながら通うことができており日々感謝しています。仕事と学業の両立は大変ですが、

その充実感もあります。いつか大学院での学びが、今後の看護の発展に貢献できるよう、日々努力することが今の私の目標です。

看護アセスメント学分野

鎌倉美穂

日本のがん罹患率は年々上昇を認め、2人に1人ががん罹る時代とも言われています。がん罹患者は人生に渡り多くの全人的な痛みを曝され続けま

す。がん患者様が人生の最期まで自分で意思決定し続け、その人らしく人生を全うできるようにサポートしていきたいと思

い、大学院に入学しました。大学院に入り、あっという間に半年が過ぎようとしています。1年目の学びは、専門的な知識の修得のほかに、自分の看護観や看護経験、そして自分自身と向き合うことでした。働いていた時は、ただ我武者羅に前を見て走り続けていました。しかし、入学を機に退職し、学業に専念したことで、看護について立ち止まって振り返ることが可能になり、それまで気付かなかったものを知り、感じ、学ぶことができています。いずれは、がん看護専門看護師となり、大学院で学んだことを臨床に活かしていきたいと思っています。そのためにもあと1年半を大切に過ごしていきたいと思っています。

がん看護学分野

青木咲奈枝

検査技術科学専攻

分野紹介

検査技術専攻は、臨床検査全般を学問領域にしています。臨床検査は診断・治療の指針となる貴重なデータを提供しており、医療の現場ではもはや欠かすことが出来ません。今日の医学・医療技術の進歩に従い、臨床検査は高度に専門家しつとあり、幅広い教養と深い専門知識を備えた臨床検査技師が必要とされています。また最近では、栄

養サポートチームや感染制御チーム、治療チームなどのチーム医療で活動する機会も増え、チームワーク力も必要とされています。このため、臨床検査技師には、生体情報をただ正確に検査するだけに留まらず、検体の持つ様々な情報から重要なものを的確に抽出し、解析・検討した上で分かりやすく提供することが求められてきています。さらに、臨床に関わる研究・開発分野においても臨床検査全般の知識をもつ人が求められてきています。本専攻では、これらの多様なニーズに応えるためにも前述のようなカリキュラムが組まれています。

同窓生より

内分応用医科学分野では、高橋和広教授、金子桐子助教のご指導のもと、様々なペプチドホルモンの働きのメカニズムの解明を目指して研究を行っています。

ホルモンは、それぞれが大変重要な働きをしていて、体を正常に保つのに欠かさない存在です。それ故にひとつたびバランスが崩れてしまうと重篤な疾患を起こすことにつながってしまいます。私たちは、これらの疾患の治療のためには未然に防ぐことのできる未来につながるホルモンのメカニズムの解明を目標としています。

学部時代とは違い、英語の論文から知識を得て自分のものにしなければならぬし、実験がなかなか上手くいかない時もあり、なかなか思うよういかないこともたくさんありますが、先生方の熱心なご指導と院生同士でお互いを切磋琢磨しながら充実した日々を過ごしています。

大学院では自分でスケジュールを立て、研究していかねばならないので、2年間という短い時間の中でどれだけのことが出来るかは自分次第だと思います。

早いもので、残すところ1年と数ヶ月と

内分応用医科学

柴崎瑛子



した。この部屋で研究を行うにはまだまだ設備を整える必要はあり、現在教授の鈴木先生や今年から大学に赴任された菊地さんを中心として設備を整えているところで

病理検査学分野

佐々木淑恵

放射線技術科学専攻

分野紹介

現代の医療において、放射線治療は欠かすことのできないものであり、画像診断・核医学・放射線治療の3つの領域から成り立っています。例えば、X線・磁気・超音波・放射性同位元素などを用いて人体の内部を画像化して診断したり、放射線によって疾患部を治療したりします。放射線治療の診断および治療機器には最先端の科学技術が取り入れられ、その活用には高度な専門的知識が必要であり、また人体の構造や機能、種々の病態についての知識が不可欠です。

本専攻には、放射線基礎技術学講座と放射線医療技術学講座の2つの講座とその下部には7つの分野があります。

放射線基礎技術学講座には、放射線の基礎理論、X線発生装置の原理、超音波装置・磁気共鳴装置・CT装置などの基礎原理、画像の撮影および構築法並びに放射線画像の解析法などが含まれます。物理学、応用数学、電気・電子工学、情報工学、医用画像工学、放

射線計測学などの基礎理工学を基に各医療機器の理論および動作原理を学びます。また、放射線医療技術学講座には放射線基礎医学、総合画像診断技術学、R1診断技術学、放射線治療技術学が含まれ、基礎医学・総合画像診断技術学では人体の構造を理解し、放射線画像で構造を同定できるようにします。R1診断技術学では、放射性同位元素の基礎とR1画像の構築法を、放射線治療技術学では高エネルギー放射線発生装置の理論および放射線生物学の基礎などを学びます。

将来は、放射線技術科学の指導者や教育者並びに研究者として、当分野を支え得る質の高い優れた人材の育成を目指します。

同窓生より

高齢化社会を迎え、がん治療における放射線治療の重要性は著しく高まっています。当分野では、治療計画を行う上で必要な医学物理、腫瘍学、放射線生物学と高度先進医療としての放射線治療における放射線治療計画システム学について学び、治療計画、線量測定、放射線治療の品質管理のできる放射線治療専門の放射線技師、物理士、品質管理士などを目指しています。また、近年の放射線治療は定位照射法、強度変調照射法、画像誘導放射線治療など極めて高い精度の要求される照射法が主流となりつつあり、このような高精度放射線治療法に関する研究を幅広く行っています。

主な研究内容として、「マルチリーフコリメータを用いた呼吸性移動追跡照射装置の開発」、「PET用新低酸素細胞イメージング剤¹⁸F-FETP-T10の開発と臨床応用」、「放射線応答を利用した放射線治療法の基礎研究」などが挙げられます。さらに、大学病院に赴き、実際に現場で必要な技術や知識を身につけるべく、日々トレーニングにも励んでいます。

放射線治療学分野

遠藤春奈

新任先生のご紹介

今年度も沢山の先生方が本学に就任されました。ごあいさつをいただきましたのでご紹介させていただきます。



教授 朝倉 京子

2009年4月に保健学専攻看護アセスメント学分野に着任した朝倉京子です。仙台には講演の仕事で数時間のみ訪れたことがあるだけで、2度目に仙台の地を踏んだ時にはもう東北大学の採用面接でした。右も左もわからない状態から、同僚の先生方の温かいご支援を賜り、ようやく仙台での生活と東北大学での職務にも慣れてきたところです。

本学着任前は、新潟県立看護大学で基礎看護学を担当しておりました。新潟と長野の県境周辺が私の生家のルーツで、新潟の勤務地からほど近い土地に生家のお墓があったため、新潟県立看護大学在任中は生家の墓守の役目を担ってまいりました。しかし、このたびの赴任にあたり、先祖がこの役目から解放してくれたのだらうと感謝をしています。

専門とする研究領域は、看護とジェンダーに関する社会科学的分析です。とりわけ、看護やケアの原理、看護職の専門性・自律性、看護労働のグローバルゼーションに関心をもつて研究を進めています。

近年の保健医療は激動の時代を迎えており、社会が看護職に求める資質や能力に大きな変化がみられるようになっていきます。従来のように、医師の指示を忠実に守るだけの看護職ではすでにこの時代の医療を担っていくことはできません。依然として日本の看護職の約95%は女性が占めています。看護は女性だけが専有すべき領域でもありません。近年の看護職の高学歴化は顕著であり、それに見合った専門性の確保や社会的地位の向上も必要です。また、少子高齢化を迎え、

増大する一方の医療ニーズに看護職が

どう対応するかも大きな課題です。これからの看護を考えた方、看護の専門性向上に関する研究をしたい方、現在の医療・看護を変革したい方、看護労働の国際的なダイナミクスを考えた方たちとともに議論や研究を行うことを心から楽しみにしております。

研究室は保健学科B棟2階にありますので、気軽に立ち寄ってください。どうぞよろしく願っています。

看護アセスメント学分野 (朝倉 京子)



助手 大槻 久美

平成二二年四月から、老年保健看護学分野に赴任いたしました。

大学卒業後三月まで、東北大学病院で臨床看護一筋に看護師として働き、経験した分野は、血液・免疫、腎・高血圧・内分泌(糖尿病を含む)、手術室、外来看護(皮膚科、麻酔科、小児外科等)で、その中でも長く患者様と接していた疾患は血液・免疫疾患でした。

そのため、研究分野も血液疾患患者(特に造血細胞移植患者)のQOL改善がメインテーマで、そのほかに、新人だけでなく看護師のバーンアウトなどを防ぐために勤務体制に関連した研究も行い、こちらの研究成果も少しでも臨床に還元できたらとの思いで働いてきました。

今回、技術職から教育職に移り、医療職に巣立つ前の学生の皆さんが対象となるため、職業人になった時に少しでも戸惑わないようにお手伝いできたらと思っています。そしてなによりも、若い皆さまと意見交換ができ、私自身の刺激になればと思っています。これからどうぞよろしくお願い致します。

老年保健看護学分野 (大槻 久美)

教授 清水 律子

米国ミシガン大学博士研究員を経て、医学系研究科病態検査学分野の教授として赴任していただきました。血液疾患の病態解明について研究なさっています。以下、ご挨拶をいただきましたので記載いたします。



教授 清水 律子

仙台で生活するのは生まれて初めてで、不安と期待とが入り交じった気持ちで参りましたが、暖かい情緒と都会の華やかさが心地よく入り交じっているこの地を、第二の故郷と呼べる日もそう遠い未来ではないような気がしています。

私は、慶應義塾大学医学部卒業後の約十年間、大学病院や地方病院などの第一線の医療現場で臨床医として勤務し、疾患の診断、治療、検査、予防を中心とした臨床医学を学び、内科学と血液学の研究を積んできました。その後の約十年間は、筑波大学先端学際領域研究センター講師として基礎研究、特に白血球発症における多段階発がんメカニズムの解析を行ってきました。そして、これからは、いままでの経験を活かして、臨床医学と基礎医学の架け橋になるような研究をしていきたいと考えています。そのためにも、検査結果を科学の目で分析し、論理的に思考する能力をもった検査技師を育成すること(臨床医学からのアプローチ)と旺盛な知識欲をもった生命現象の基礎解明に挑む若手研究者を育成すること(基礎医学からのアプローチ)が必須と考えています。そして、東北大学保健学科で、このような意欲のある若い学生さんたちとタッグを組んで、ひとつひとつ生命の謎を解明し、医学研究の発展に貢献していきたいと願っています。どうぞよろしくお願い致します。

病態学検査分野 (清水 律子)

助教 金子 桐子

東北大学大学院医学系研究科博士課程を経て、本学の医学系研究科内分応用医学分野助教として就任していただきました。赤血球の分化とプロレリンレセプターの解析について研究なさっています。以下、ご挨拶をいただきましたので記載いたします。



助教 金子 桐子

今春に学位を取得後、すぐに母校へ戻れたことを幸運に感じつつも、短大時代は追試ばかりだったことを思い出して「イロモノ枠」採用だったのではなからうかと最近気づき始めています(短大時代の同級生たちも同意見のようです)。

これまで、本学の医学系研究科大学院生としての6年間をほぼ研究室にこもりきりで自分の研究課題(赤芽球の分化誘導機序解析)だけに没頭させてもらえ、大変恵まれた大学院生活を過ごしてきましたが、この4月からは当然ながらうって変わり、自分の研究以前に学内実習や院生と一緒に実験をするようになりまし

た。物理的な移動は敷地内であったものの、環境の変化は著しく、当初は一日を終えると這々の体で家路につく始末。しかしながら、新しい環境でも先生方をはじめとした周りの方々に恵まれたおかげで、この原稿を書いています夏休みに入ろうかというあたりまで、どうにかやってこられています。

この星陵キャンパスで過ごすのは、11年目になります。大学生活となると、さらに1年足すこととなり、えらく長い学生生活だったと我ながら思います。安穩とした学生生活から急に、所謂「教える側」に変わったものの、学生さんたちから学ぶことはとても多く、学ぶことに立場の差異はないこと、また、自分の知

識や経験をアウトプットしていくだけでは直にそれらは枯渇していくこと、だから常に様々なことをインプットし続けていくこと。これらの重要性に(ようやく)気付いては慌てて勉強のやり直しをしつつも日々新鮮な気持ちで学問に向き合っています。

私の今が在るのは呆れながらも理解と協力をしてくれた家族と多くの友人や先輩後輩の存在、それから先生方の忍耐強いご指導の他にありません。自分がこれまでにたくさんの方々にしていただいたことを感謝しながら、研究活動による社会貢献を目標に、この保健学科に微力ながらも還元して参りたいと考えています。

内分応用医学分野 (金子 桐子)



准教授 小山内 実

2009年4月1日付けで、医用画像工学分野准教授として赴任いたしました小山内実です。私の地元は茨城県の水戸市ですが、1歳から小学校1年生まで仙台に住んでいたため、懐かしい場所に戻ってきた感じがします。

私の略歴をざっと述べると、名古屋大学理学部物理学科で学部から博士課程までを修め、杏林大学医学部第二生理学教室、東京医科歯科大学医学部薬理学教室、理化学研究所脳科学総合研究センター、大阪大学大学院工学研究科電気電子情報工学専攻を経て、現在に至ります。専門は、名古屋大学での博士後期課程以来、脳・神経機能を解明するための神経生理学ですが、近年はカルシウムイメージングという光学イメージング法を中心に研究を展開してまいりました。現在は放

射線技術科学コースに所属しています

が、可視光も放射線の一部と考えられると、あながち遠い研究ではないのではないかと思っています。また、これまで私が所属していた環境にはなかったCT・PET・MRIなどを用いたイメージングを専門に行っている方々が近くにいらつやいますので、将来的には是非共同で研究をしたいと思っています。さらに、被爆あるいは放射線治療の細胞レベルでのアッセイにも貢献できるのではないかと思っています。

さて、教育に目を向けてみると、この保健学科も修士課程が設置されてから2年が経ち、恐らく来年度の4月には博士後期課程が設置されるものと思われま。私が思うに、学部教育での診療放射線技師、看護師、臨床検査技師などの養成はもちろんのこと、大学院では、研究者、教育者、あるいは一般企業人となるべき人材を育てることが、本保健学専攻の責務なのではないかと思っています。近年、深い専門性と幅の広い知識を持った人材を大学院では育成すべきである、などといったことが、文部科学省を初めとして様々な機関から提唱されております。これは、一つのことには固執せずに、様々な分野で応用ができる人材を育成せよ、という意味であると思えます。これらの観点から考えると、本保健学科では非常に幅の広い講義が用意されていますので、学生の皆さんには、是非、どの講義も分け隔て無く、しっかりと学んで欲しいと思います。私はいとうと、学部では主に電気工学関係の講義、実験を担当しておりますが、大学院では神経生理学の研究を通じて、研究とはどういうものなのか、を学生の皆さんに学んで頂きたいと思っております。神経生理という、生物学的な領域と思われるかもしれませんが、生物の知識よりも、電気、物理、化学、数学などの知識の方が重要で、イメージングを行うためには、画像処

像処理の知識も必要になります。また、私の略歴を見ていただければお分かりの通り、これまで理学部、医学部、工学部という理系の主要学部を経験してまいりました。今後は、この経験および現在の研究を生かして、どこでも通用する、幅の広い知識を持った学生の育成を目指したいと思えます。さらに、学生の皆さんと一緒に考え、学ぶことにより、私自身も成長できると思っております。これから、どうぞよろしくお願い致します。

医用画像工学分野
(小山内 実)



●助教 川住 祐介

2009年4月より、画像診断技術工学分野に赴任させていただきました川住祐介と申します。平成14年東北大学医学部を卒業し、同年東北大学病院放射線科に入局いたしました。最初の2年間で放射線診断、放射線治療、核医学をローテーションしたのち放射線診断科(量子診断学分野)に身を置いておりました。日常業務としてはCT・MRIを中心とした読影を行い、研究面ではモニター画像診断能評価や遠隔画像診断、コンピュータ支援肺結節検出システムの開発などに携わっております。

これまで培ってきた臨床経験を生かし、保健学科の学生さんには画像解剖や主要な疾患の概要・画像所見、医療従事者としての心構えなどを教えてきたいと思えます。また周りの先生方にご教授いただきながら、病院では学べなかったことを勉強していこうとも考えております。

若輩者ゆえご迷惑をおかけすることが多々ございますが、ご指導ご鞭撻の程どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

画像診断技術工学分野
(川住 祐介)

オープンキャンパス2009開催!!! 今年も大成功☆



オープンキャンパスの様子です。
普段なかなか見られない高価な機械
の前でみんな緊張気味です☆

毎年、東北大学が総力をあげて開催しているオープンキャンパスが、今年は7月30日(木)と31日(金)の二日間に渡って開催されました。保健学科の主な企画として、在学生による入試体験談や学生生活相談コーナー、教員による進学・カリキュラム・卒後の進路等の相談コーナー、入試委員会委員による保健学科入試・大学院の説明および質疑応答コーナーが設置されました。各専攻では、実際に大学の授業が体験できる模擬講義や看護学および検査技術科学専攻の施設見学、放射線技術科学専攻のデモンストレーションコーナーが企画されました。また、今年度の目玉企画として、放射線技術科学専攻の案内ツアーが催されました。ツアーでは、星陵キャンパス内や図書館、大学病院だけでなく、普段は立ち入ることのできない「放射線管理区域」や研究室を見学できるとあって、多くの方々に参加してくれました。CTやMRIなどの大型放射線機器や研究に触れることができ、大人から子供まで楽しんでいただいております。私たち実行委員としても、このために頑張って準備してきた甲斐がありました。

開催にあたっては、学部と大学院の学生にボランティアとして参加いただき、多くの学生にお手伝いしていただきました。ありがとうございました。2日間の来場者数は、1800人を超え、大盛況のうちに終えることができました。来年度は、今年度以上に素晴らしいものを作っていく予定です。みなさんの参加を心からお待ちしています。卒業生も是非、お時間があれば生まれ変わった母校のオープンキャンパスに足を運んでみて下さい。改築された校舎も見ることが出来ますよ☆

編集後記
予想以上に新聞作りは大変でしたが、みんなの協力で無事に作成できて良かったです。
看護アセスメント学分野
永井 瑞希

昨年度は、新聞を読む立場でしたが、今年度は作成する立場になり、改めて新鮮な気持ちで保健学科のことを知ることができたように思います。たくさんの方の協力があり、新聞ができありがとうございました。ご協力くださったみなさま、ありがとうございました。

初めての作業で戸惑うことばかりでしたが、一応形としてできあがって安心です。他専攻のみなさんと協力してできたのでよかったです。
先端放射線技術工学分野
水口 早苗

新聞作成を通じて、他コースの人達との交流の機会が持てて良かったです。新聞作りは大変でしたが、みんな楽しい時間が過ごせました。ありがとうございました。

初めての新聞作成だったので思うようにいかず、大変でしたが何とか出来上がってよかったです。ご協力下さいましたみなさんありがとうございました。

いろんな方が協力してくれたので、ちゃんと新聞が完成しました。どうもありがとうございました。
分子機能解析工学分野
植松 智有希

内分応用医科学分野
柴崎 瑛子

画像診断技術工学分野
高根 侑美

看護アセスメント学分野
千葉 春香

oc2009/info_m.html